



第8上橋波橋



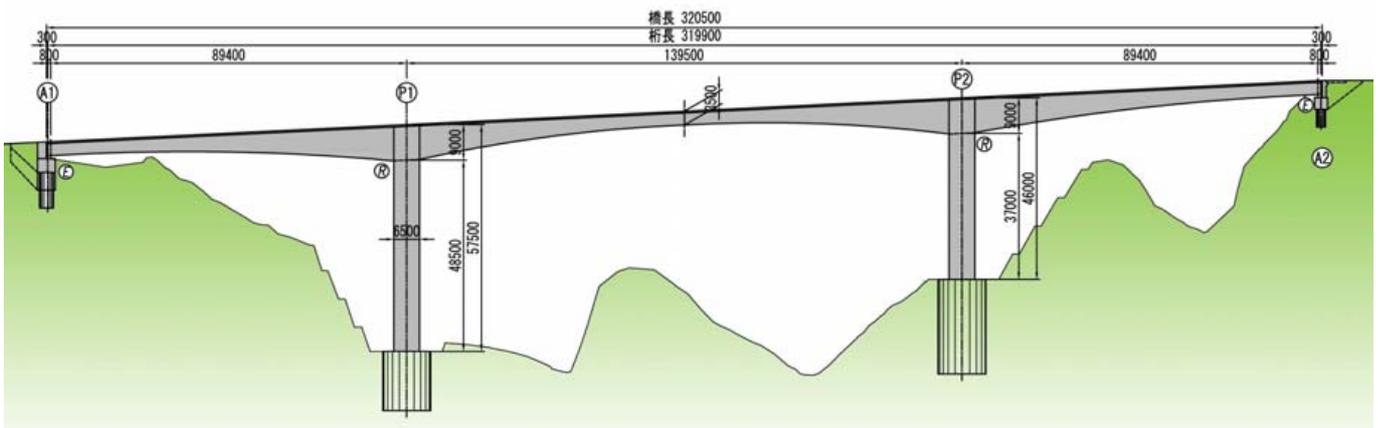
第8上橋波橋は、島根県飯石郡^{とんばらちよう}頓原町に建設される志津見ダムにより付け替えとなる一般国道184号の橋梁です。付け替える区間は、簸川郡佐田町上橋波地内から飯石郡頓原町八神地内までの延長L=11.3kmで、本橋は、佐田町と頓原町を跨ぐ志津見ダム直下流に位置しています。

本橋は、全体で20橋ある橋梁群の中で、最長のL=320.5mとなる橋梁です。急峻な山岳斜面に計画されていることから、自然地形の改変を極力抑え、かつ、橋梁の建設費を下げるため橋脚本数を減らしたことで、中央支間長はL=139.5mと連続ラーメン橋としては国内でも最大級の規模となっており、内外ケーブル併用構造を採用しています。



一般図

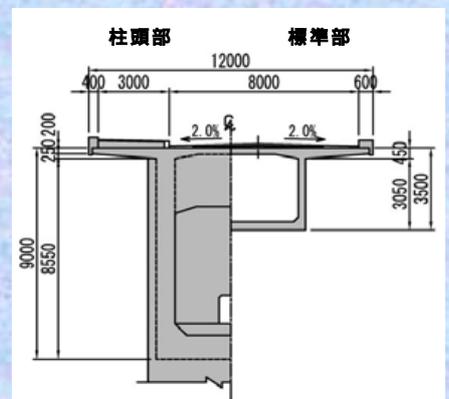
側面図



橋梁諸元

- 工事名：志津見ダム第8上橋波橋上部工事
- 発注者：国土交通省 中国地方整備局
- 設計者：パシフィックコンサルタンツ(株)
- 位置：島根県簸川郡佐田町上橋波地内～飯石郡頓原町角井地内
- 道路規格：第3種第3級
- 形式：PC3径間連続ラ-メン箱桁橋
- 荷重：B活荷重
- 橋長：320.5m
- 総幅員：12.0m（有効幅員：8.0m（車道部）+3.0m（歩道部））
- 架設工法：張出し架設工法
- PC鋼材：外ケーブル SWPR7B 19S15.2（ディビダーク工法）
内ケーブル SWPR7B 12S15.2（ディビダーク工法）
床版横締め SWPR19B 1S28.6（SM工法：プレグラウト鋼材）
横桁横締め SWPR19B 1S28.6（SM工法）
鉛直鋼材 SBPR930/1180 32（ディビダーク工法）

断面図



構造・施工概要

1) 上部工

張出し施工を対称施工で行った場合、側径間長の比率が中央径間より長くなります。また、橋台前面は急峻な地形であり支保工施工が困難です。このため、中央径間を閉合した後に、両側径間を2次張出し施工(2ブロック)するように設計されています。

本橋は内外ケーブル併用構造を採用しており、外ケーブルは、主桁自重以外の荷重に対して配置されています。配置本数は、中央径間が8本、両側径間が4本であり、予備孔が設けられています。

床版横締鋼材には、省力化を目的としてプレグラウト鋼材を使用しています。

2) 下部工

橋脚には、断面のスリム化などを図るため、 $ck=40N/mm^2$ の高強度コンクリートが採用されています。



P1 橋台



全 景



P2 橋台

工程表

項 目	平成15年												平成16年											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
準備工	■	■	■																					
脚頭部工			■	■	■																			
柱頭部工					■	■	■	■																
張出し架設工								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
中央閉合工																	■	■						
側径間閉合工																	■	■	■	■				
橋台後打工																				■	■	■		
橋面工																					■	■	■	■